

Gymnopédie No. 1

この曲は左手が難しいです。
 そのため、両手で弾くためには
 右の暗譜とブラインドタッチが必要です。
 早いうちの手の形を押さえられるように
 指使いを丁寧に守って着実にステップしましょう!

ほとんどがPP、Pで静かです。
 非常にシンプルな中に
 表現の「鍵」となる音を見つけてゆく
 面白さと難しさがあります。
 鍵は「微妙な変化」にあると思います。

前半、後半
 それぞれ4つのフレーズです。
 「起」「承」「転」「結」の
 ドラマを作りましょう。

前半 ゆっくりと 苦しみをもって

Lent et douloureux

Erik Satie

1フレーズ目はまだ
 リラックスしている印象があります。

強くしすぎると曲の雰囲気
 合わせづらいかもかもしれません。
 このフォルテは「右手の和音を響かせて」と捉えても良いでしょう。

2フレーズ目は1フレーズ目よりも
 歌って展開させています。
 フレーズの開始を少し強めに入り、
 後半のドラマが動く場所では更に印象づけることもできます。

曲の「ヘソ」とも呼べる場所に
 感じられます。
 短調の悲しげな性格が
 曲の中で初めて見えます。
 これからの3フレーズ目以降の展開を
 期待させるところです。